

主な内容

- 市・県民税の申告相談
..... P 2~5
- 高齢者総合相談センター
..... P 6
- 暮らしの情報
..... P 8~11

祭りに魅せられ70年 「真剣勝負」の祭りは財産 後世に伝えるため総参加に改革



一関市・大東大原水かけ祭り
保存会 顧問
亀卦川敬之さん
県内で学校教諭を務め大原
中学校長で退職。昭和63年から
平成12年まで大原水かけ祭
り保存会会長。大東町大原。
86歳



今年で352年の歴史を誇る一関市・大東大原水かけ祭り。火防祈願のため始まった祭りは、現在では無病息災と大願成就を祈願する参加者が多くなっています。酷寒の季節、裸男たちに水を浴びせかける祭りは「天下の奇祭」と称され、市内外から多くの参加者と観光客を集めます。

大正12年生まれで、70年以上も祭りを見守る亀卦川敬之さん。記憶には、万延元(1860)年生まれの祖父が繰り返して語った「昔の大原商店街には、通りに防火用水が流れていた。その水路からおけで水をくんで掛けるので、砂利交じりの水を掛けられた裸男と沿道の人々が、激しいけんかになるのが常だった」との当時の話。「戦後に道路が舗装されてから、沿道におけを置いて水を掛ける現在のやり方になった」と現在の姿を解説します。

教員退職後の昭和63年、保存会長に就任。当時は午後3時から約1時間で終わる祭りでした。それが、遠来からの観光客の「たった1時間で祭りが終わり、見るものがない」との声になるほどと思い、消防団の纏振り、子供たちによる太鼓山車や御輿、郷土芸能など多くの人が参加する祭りに。当初の「大原水かけ祭り」から、平成7年に「大東」が、18年に「一関市」が加わり、現在の名称に。「多くの人に祭りを共有してもらうことで、この祭りを継承していきたい」との思いからです。

「真剣勝負。それがこの祭りの原点」と語り、今年も多くの人に訪れてほしいと祭りはんてんに袖を通す日を心待ちにします。(関連記事11ページ)